

2015

3月

春号

かだる

ka da ru

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

輝くシニア

「大道芸で笑顔を運ぶ」

岩上 敏一さん（岩泉町）71 歳

県内の高齢者施設などで大道芸のボランティア活動続ける岩上敏一さんは、平成 20 年の活動開始から今年で 8 年目を迎えます。昨年 10 月には通算 1,000 回を超え、さらなる意欲を燃やしています。

岩上さんは葬儀屋・仏具店・衣料品店を営むかたわら、趣味で大道芸を身につけました。大道芸を始めたきっかけは、ある時、「今まで仕事一筋でやってきたが、使わなくなった仏具を利用して人に役に立つことをやってみたい」と思ったこと。そこで、不要になった灯籠を笠に改良し、頭に乘せて回してみたところ、「これはユニークで楽しい」と大道芸を思い立ちました。



手作りの道具で演奏を披露する岩上敏一さん

慰問先では軽妙な語りど巧みな芸に加え、10 種類以上の音が出る自作のドラムで演奏しながら演歌などを披露して会場を沸かせています。大道芸で使う道具は、すべて、自身による手製のもの。不要になった仏具等や日用品、電化製品の部品を活用して装飾を施し、ユニークな道具を数多く作成。また、大道芸も自身のオリジナル。特徴的なのが、頭の上で様々なものを回すパフォーマンス。ぬいぐるみ、手作りの東京スカイツリーのオブジェなどを頭上で回す“回転芸”がレパートリーのひとつです。

遠距離移動が続き自家用車で宿泊することもあります、「人との出会いが楽しみで続けているんです」と、人の笑顔が活動の原動力になっているとのこと。また、「30

歳から 70 歳までマラソンを続けていたから、今の体力が維持できている」と話す岩上さんは、65 歳のときには、岩泉町から盛岡市までの約 70 キロを走破したほどの体力自慢で、過去、東北各地で行われたマラソン大会では、60 歳以上の部門で常に上位入賞を果たしました。

ボランティア活動の他に、東京都で開かれる「芸王(げいわん)グランプリ」に毎年参加しており、2 度準優勝したほどの実力者。それでも、「次はどんなことをしたらもっと喜んでくれるんだろうと考え、日々、練習と工夫を重ねています。まだまだ勉強中ですから」と、芸を磨くことに余念がありません。「今後も鍛錬を重ね、慰問回数 2,000 回を目指して、もっと多くの人を喜ばせたい」と意気込みを語りました。



頭の上で、得意の“回転芸”を披露

団塊の世代が高齢者に到達し高齢化が一層進展する中で、高齢者の生きがいがいづくりとともに、地域の高齢者が持つ知識・経験や技術を活かし地域活動の担い手として社会参加することが望まれます。いわての保健福祉支援研究会では、高齢者の社会参加の促進に役立てるため、滝沢市と地元自治会の協力を得て高齢者の生活実態や社会参加への意識等について調査を実施しました。この調査では、世帯の高齢者全員を対象としたため、世帯内の男女の差異が見て取れることが特長です。以下その概要を紹介します。

- ①調査地域 滝沢市内滝沢ニュータウン
- ②調査時期 平成 26 年 11 月
- ③調査対象 60 歳以上の高齢者がいる 762 世帯の 60 歳以上の男女
- ④回収状況 回答世帯数 320
(回収率 42%・回答数 512 人)

1 健康状態

現在の健康状態については、健康とする人（普通、まあ良い、良い）が約 8 割と、多くの人は健康です。

2 高齢者の年齢

「高齢者は何歳以上が適当か」については、「70 歳以上」が 56.4%と最も高く、従来の高齢者とされる「65 歳以上」は 17.6%と、高齢者に対する意識が変化しています。

3 就労

「何歳ごろまで働きたいか」については、「65 歳くらいまで」が 38.7%と最も多く、次いで「70 歳くら

いまで」が 24.0%など、60 歳以降も働きたいとする人は約 8 割と就労意識が高くなっています

4 近所との付き合い

近所との付き合いについては、「かなり親しい付き合いがある」が 8.2%、「まあまあ付き合いがある」が 54.7%で、これを合わせると 62.9%ですが、女性だけでみると約 7 割と高くなっています。

5 生きがい

生きがい（喜びや楽しみ）を感じる時については、「趣味やスポーツに打ち込んでいる時」が最も高く 49.8% (255 人) であり、次いで「友人や知人と食事、雑談している時」43.1% (221 人)、「孫など家族との団らんの時」41.0% (210 人)、「旅行に行っている時」39.8% (204 人)、「美味しい物を食べている時」37.5% (192 人) の順となっています。男性では、「趣味やスポーツに打ち込んでいる時」「孫など家族との団らんの時」が高く、女性では、「友人や知人と食事、雑談している時」「美味しい物を食べている時」が高くなっています。

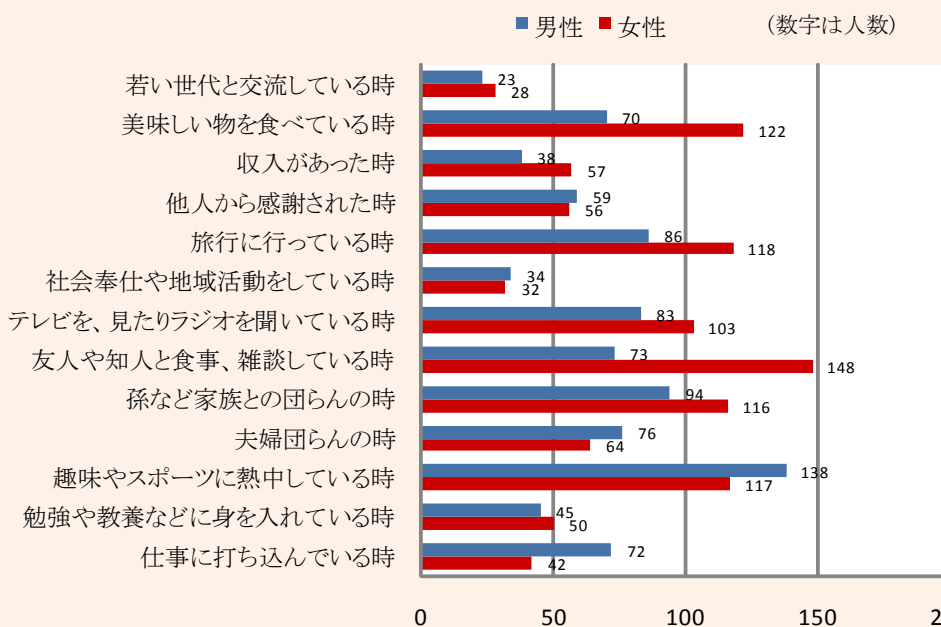
6 社会参加活動

現在行っている活動の状況については、「サークル活動・仲間と行う趣味・教養」が 55.3%と最も高く、「町内会、自治会活動」54.3%、「地域行事への参加・手伝い」53.3%の順となっています。

また、今後やってみたい社会参加活動については、「サークル活動・仲間と行う趣味・教養」が 28.3%、

「スポーツ・レクリエーション活動」23.8%、「習い事」18.4%、「ボランティア活動」18.0%であり、「働く機会があれば就労したい」12.1%となっています。男性は地域活動への参加意識が高い反面、女性は、ひとり暮らしの高齢者や介護施設、子育て世代への支援活動への参加意識が高くなっています。

生きがい(喜びや楽しみ)を感じる時(複数回答)





柳沢ピンコロくらぶ (滝沢市) 「地域の仲間で健康長寿を目指す」

柳沢ピンコロくらぶ(佐藤勲代表、会員 28 名)は、地域住民等で仲間をつくり健康長寿を目指すことを目的に、滝沢市柳沢地区で活動しています。設立は平成 25 年 10 月。会員は高齢者を中心としており、活動を聞きつけて他地区から加わっている人もいます。柳沢地区は自然に囲まれた田園地帯で住宅が点在しているため、緊急の場合に頼りになるのが家族と仲間。そのため、普段からの仲間づくりが重要と位置づけ、同会の結成に至りました。毎月勉強会などを開催しており、「認知症予防」「介護」「口腔ケア」など高齢者の医療に関することに加え、最近は、「救急法」「一人暮らしの男性の料理」「納涼落語」などレパートリーを増やしています。

昨年 11 月からは、「減塩で健康長寿」をテーマに新たな活動を開始。脳卒中をテーマに講演会、講座を開き



柳沢ピンコロくらぶ主催の「救急法」講座の様子

減塩料理実習なども行っています。佐藤代表は「今後もさらに健康への意識を高めたい。また、このような活動が他地区へ広がることを期待したい」としています。

(この事業の一部に、いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。)

見分森カラオケ同好会 (奥州市) 「自慢ののどでカラオケ慰問」

奥州市水沢区の見分森カラオケ同好会(村松靖雄代表、会員 19 名)は、高齢者施設などに出向き、「慰問歌謡ショー」によるボランティア活動を行っています。自慢ののどで高齢者に元気を届けようと、月 2、3 回のペースで奥州市内を中心に回っています。



カラオケ慰問活動の様子(奥州市内の高齢者施設)

同会は、歌が好きな会長を中心とした有志が集まり平成 16 年に結成。今年で 12 年目を迎え、これまでの慰問回数は 152 回を数えます。慰問先にはカラオケ機材を持ち運び、会員が、「ブルーライト・ヨコハマ」「岸壁の母」などの昭和歌謡や演歌、唱歌を交代で披露。施設側からのリクエストにも応え、入所者に喜びを与えています。歌の技術は、会員が各個人で普段から練習を重ねている他に、月に一度、月例会で全員がカラオケボックスなどに集まって腕を磨いています。

村松代表は「歌を聞いて喜んでいただけるのが励みになるとともに、歌を唄う私たちにも『若さと力』を与えてくれます。今後は、訪問先や会員を増やして、さらに内容を充実させて活動の輪を広げていきたい」と抱負を話しました。

(この事業の一部に、いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。)

お元気シニアボイス 「知的ゲームのマージャンで仲間づくり」 二戸市 西村牧男さん(72 歳)

平成 14 年 11 月の全国紙に、高齢者の生きがいとして「マージャン交流が広がっている」と大きな見出しが掲載されていました。私はこの記事に大いに刺激され、翌年 1 月に「(お金を) 賭けない」「(タバコ) を吸わない」「(酒を) 飲まない」健康的なマージャンを目的とする、健康マージャン愛好会を結成し、今では、この活動はすっかり定着しています。その 6 年後、母が入所していた施設

に行った時、「私には誰も会いにきてくれない」という他の入所者の方の一言が、新たなボランティア団体結成のきっかけとなりました。平成 21 年 4 月、新たに「二戸健康マージャンボランティア」を立ち上げ、施設の了解を得られるところに出向き、入所者および利用者の方々との交流を始めました。現在、二戸市内 6 か所で、仲間たちがマージャン、将棋等で毎週交流し、楽しんでおります。

NPO 法人シニアパワーいわて（八島征治理事長、会員 40 名）は、「高齢者が永年職場で培ってきた知識や技能を生かして地域の振興に寄与し、併せて自身の健康管理と生きがいづくりを図ること」を目的として、平成 16 年 10 月に設立。昨年、10 周年を迎えました。会員の多くは、盛岡市在住の銀行員や公務員の退職者で、平均年齢は 70 歳を超えています。法人設立のきっかけは、前理事長が退職後に何か社会に役立てることができないかと考え、後輩を誘って NPO 関係の講座を受講したことです。

主な活動として、行政・企業との協働事業、中間支援（他の NPO 法人の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助）事業、地域振興事業等を行っています。

行政・企業との協働事業は、県・市町村等からの委託を受け事業を行っています。復興支援の担い手の基礎的能力強化事業の一環として「NPO 法人の運営に係る基礎講習会」、「NPO 法人新会計講座」を開催。そのほか、震災からの復興に向けて取り組んでいる NPO 法人を支援するため、「被災地における NPO なんでも相談会」などを開催しています。

中間支援事業は、県内で市民活動を行っている N



NPO 法人の運営に係る講習会の様子

PO 法人に対して総務や経理の支援を行っています。NPO 法人の中には、内部の事務処理まで手が回らないケースもあり、経理の訪問指導から決算書作成までを手伝うなど、現在は 60 団体を支援しています。

こうした活動は、支援を受けている NPO 法人の適正な経理処理に役立ち、今後も大きな期待が寄せられています。また、会員が永年培ってきた知識や技能が存分に生かされ、会員自身の生きがいに繋がっています。

地域振興事業は、一般市民や NPO 法人を対象に「年金・社会保険、NPO 法人の困りごと等の無料相談会」を毎月 1 回開催。その他の事業としては、市民が樹木や自然に親しんでもらうことを期待して、岩手公園に樹木名を表示したプレートを設置。また、来年本県で開催される国体に向け、県内外からの来訪者を気持ちよく迎えらるよう、もりおか歴史文化館入口の花壇整備などにも取り組んでいます。

八島理事長は、「会員の高齢化が進んできているが、少子高齢化社会に向けて高齢者の健康と活力の保持のためにも、活動を展開して行きたい」とし、「NPO 法人を支援する中間支援が会の目的。運営や経理などで困っている団体を大いに応援したいので、遠慮せず気軽に相談してほしい」と話しています。



2016 年の岩手国体に向けた花壇整備

企画・発行 / 岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター 平成 27 年 3 月 20 日発行

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 アイーナ 6 階 tel 019-606-1774 fax 019-606-1765

E-mail koreisha-hfk@aiina.jp

URL <http://www.aiina.jp/advancedage/index.html>

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託して運営しています。

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通 3-7-30 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>